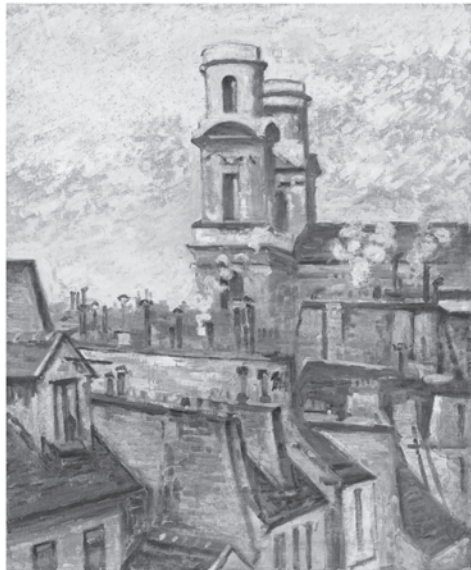


展覧会の見どころコラム②

アルマン・ギョーマン 《サン・シュルピスの塔》

街並みのなかで西日に照らされた聖堂がひととき美しく描き出されています。家々の煙突からは煙があがり、そこに住まう人々の暮らしを思わせる作品です。アルマン・ギョーマンは、労働者階級の人々や風景画といった日常的なモチーフを得意とし、印象派に忠実な画家として知られています。初期の頃から特徴的であった強い色彩は、その後起こるフォーヴィスム※の幕開けを予感させます。ギョーマンが捉えたパリの夕暮れを是非、展示室でご覧ください。

※フォーヴィスム：20世紀初頭に起こった絵画の一流派。アンリ・マティスなどが有名で、荒々しい筆致と激しい色彩の対比をその特徴とする。



アルマン・ギョーマン(1841年-1927年)
「サン・シュルピスの塔」制作年不明 カンヴァスに油彩